

# 岩手教区報

第329号  
 立教183年5月1日  
 天理教岩手教務支庁  
 盛岡市馬場町3番40号  
 TEL 019-622-7962  
 FAX 019-623-9597



岩手教区長 加藤 昌弘

## 新型コロナウイルスによる 大節にあたり

今から九年前の東日本大震災以降、国の内外を問わず発生した地震や豪雨、はたまたハリケーンや干ばつ、火災など、毎年のように数多くの大災害が続いています。その度ごとに、私達は、世の中の在りように対する神様の「ごんねん」の表れであること、そして日常生活のありがたさに改めて気づき、また反省をしてみました。さらに、立て合って見せられるお道の中におけるふしも、信仰者としての思案を重ねてきたはずでした。しかし、気づき、反省し、思案を重ねただけに留まっていたのではないかと思うのです。親神様は、その先の私たちの具体的な行動を待ち望んでおられます。

ありがたいことにこの度のふしについて、表統領先生のインタビューが『みちのとも』5月号に掲載され、「私達のお道の者としてなすべきこと。一つ、世の中の治まりを願っておつとめをつとめる。二つ、お見せ頂くことには、必ず陽気ぐらしへとお導きくださる親心があると肝に銘じる。三つ、前向きに捉える努力をし、お互い励まし合う。四つ、自分の信仰姿勢を見つめ直

す。」と力強くお示し下さっています。一方、様々な人からも今回のことについて多くの意見や提言があり、事態の深刻化に伴い、国家を初め地方の首長より苦渋の宣言や呼びかけがなされました。

世の人達に先んじて、真実の教えを知り信じている私達は、何気なく感じている日々の営みも深い親心の賜物であり、現れてくる事の全てがその御差配であると噛みしめなおし、「一致団結」の言葉を「二手一つ」に置き換えて、一列兄弟の自覚を固め、ふしを見せて下さった親神様の思召をたずね、どうしたら前向きに悟ることが出来るのかを一人一人が真剣に考え、世の中に勇みと励ましを発信していきたいものです。

さらに「論をやめて実践してほしいのです。」という亡き二代真柱様のお言葉を胸に、一日も早い安寧の日の訪れを念じつつ、自分には何が出来るのかを考え、いま出来ることから実践させていただきましょう。

同じ五本指の如く、兄弟の中なら、どの指噛んでも身に応えるやろ。あちら起こしてこちらを倒そうという理あるまい。

(明治32・12・27)



### 「人とのつながり触れ合いを」

フランク永井の歌謡曲、「……そばにいてくれるだけでいい……」のフレーズが気に入って、筆者は時折、カラオケで歌う事がある。辛いとき、悲しいとき、傷ついたとき、大切な人が側にいてくれるだけで、救われた経験をされた方が居られると思う。

その時は、特に、励ましの言葉もいらない。相手がどんな事で悩んでいるかも関係なく、先ずは相手の心に寄り添い、丸ごと相手を受け入れながら、更には、その時、相手の肩か背中にそつと手を置いただけでも、不思議な力を感じるものが人の手にはあると言われる。

古来から医聖とされてきたヒポクラテスの著作の中に「病んでいる所に手を当てると、あたかもその手に不思議な力が宿り、その力が痛みや不純物を引きずり出し、はがしとつているかのようだった」

とも述べているが、まさに「手当て」は医療の原点であり、「手当て」の治療的意味、つまり自然治癒力を高めるはたらきについて確認した言葉でもある。特に、ヒポクラテスは手で触れる行為を重視していた。更に言えば、患部だけでなく、患者を医療の中心に置き、体だけでなく心を含めた全体としての患者を「癒す」方向性が、ややもすれば見逃されがちな現代医療にも益々必要となってくるのではないか。患者の苦痛を和らげ、人間である患者との関係を良くする為にも、医師も看護師も、もっと患者に触れることが求められるのではないか。

近年の医師の多くは検査結果のデータやパソコンと向き合い、聴診器を手に患者に触れながら語り合う場面が少ないように思われる。

先日、NHKテレビの「ためしてガッテン」を見ていたら、他者の体に、我々が人様の役に立とう、喜ばしたいという思いをもって手を触れると、他者の体には心を癒す「オキシトシン」というホルモンが多量に放出されるといふ某専門家の話を聞き、信仰者である私は、得心するところがあつた。

おさづけの理を戴いているようによくお互いは、周りに病み患っておられる方々がおれば、おさづけを取り次がせて頂きたくさつて頂く使命がある。病人さんの

体の苦しいところ、辛いところに触れ、教祖のお働きを戴きご守護頂くよう祈念する治療を超えた尊い救済活動である。従つて、単なる「手当て」や「マッサージ」治療とは次元の異なる祈りの行為である。マッサージは身体に触れるが、結果的には心をもマッサージして、ほぐしているともいえないだろうか。

我々は現在、便利で豊かな日本社会に生きていながら、なぜか生きづらさを感じたり、生きがいを感じられなかったり、幸福感が低かったりするのは何故か。国連の「世界幸福度報告2018」では、日本は54位という低さである。日本よりはるかに貧しい国でさえ幸福を大きく感じとつている。それは真の意味で人とのつながりが足りないからではないかと思える人がいる。人とのつながりは、幸福感にとつて必要不可欠の要素でもある。身体的にみても人とのつながりが少ないと、病気のリスクも高くなると言われる。孤独は心と体の健康にとつて最大の敵。だからといって、SNSなどで人とつながれば良いと言うのでなく、身近な人と顔を合わせて繋がるということに意味がある。ようぼくは身近な人とのつながりによる「絆」と「癒し」を大切にして、心身の触れ合いの中に「おさづけ」の取り次ぎに心魂を込め、不思議、守護をお見せ頂きたいものである。



### 献血推進委員会

#### 「献血ひのきしん」実施報告



献血推進委員会は、4月29日に教務支庁にて、「献血ひのきしん」を実施した。

今回は、緊急事態宣言の最中だったが、血液センターより再三、「献血は不要不急

ではないので是非ともお願いしたい」との要請があった。そこで、センター指導の元、感染拡大に徹底注意しながらの実施となった。盛岡支部と、近隣3支部から駆けつけた方もいて、26名の参加協力をいただいた。本当にありがとうございます。

血液は親神様のお働きにより、かりものの体の中でしか造れません。献血によって、血液を必要としている命がたすかり、命を繋いでいる人達がいます。病

んだら献血はできません。健康に感謝してつとめる人だけであり、病んでいる方々に喜んで頂けるおたすけにつながるひのきしんです。少子高齢化の進む中、血液の安定供給に支障を来たさないためにも、より一層若い人達の献血活動への理解と協力が必要です。来年も実施いたしますので、どうぞお力添えをよろしくお願いいたします。



### 赤十字血液センター担当者より

教務支庁で協力いただいている献血では、ここ最近で一番の数となりました。ありがとうございます。

現在、新型コロナウイルスの影響で、岩手県でも献血数が減少しています。他の事業者様にも献血バスの依頼をお断りされている状況です。10年前から若者の献血離れが深刻化されていますが、今回17歳の方が献血に来ていただきまして、ありがたい限りです。

スーパードなどの街頭献血や、「もりおか献血ルームメルシー」でも献血を行っています。ホームページや新聞などでも情報が得られますので、どうぞご覧ください。献血ルームメルシーにお越しの際は、フリーダイヤルを利用しての予約も受け付けておりますし、指定駐車場の無料券も配布しておりますので、どうぞご利用ください。



### 婦人会

#### 「支部婦人会総会」

#### 中止について

教区婦人会では、本年度の最重要活動として、支部婦人会活動の活性化と会員の発掘及び親睦を主な目的として、全支部において、「支部婦人会総会」を開催する予定でした。

今回の新型コロナウイルスの感染予防のため、教区より5月開催の婦人会の支部総会の中止、または延期の要請がありました。それを受けて相談の結果、全支部が足並みを揃えて、来年の開催に変更することに決めさせて頂きました。

現在、人が集まるとのねりあいや例会などが出来にくい状況となっております。しかし、そんな時だからこそ、家族と色々な話をして神様の心を求め、お互いの心を交わす育って貰えるようつとめたいですね。

どうか、ご理解と今後のお力添えをよろしくお願い致します。

### 献血者インタビュー

献血を終えた方に感想を伺いました。



28歳男性

初めての献血でした。周囲の人から声をかけてもらいました。献血に対して注射が怖いなど不安もありましたが、時間もかからず、思っていたより痛みもなく、あっさり終わりました。次回も献血に来たいと思います。



29歳男性

33回目の献血でした。高校生の時から献血に通っています。家族も献血に熱心なので。献血の流れは、バスの中で医師との問診、血圧、そして採血となりました。無事に400ml採血してもらいました。



17歳女性

初めての献血でした。思っていたより怖くなく、痛みもなかった。終わってみれば、あつという間の出来事でした。次回も献血をしに来たいです。



### 災救隊

#### 教区訓練【5月31日】

本年度の訓練は現下の状況を鑑み、例年より日程を短縮して、盛岡分教会を会場に開催させて頂きます。今回は支部班長、教区スタッフを中心に参加人員を20名とします。

記

日時 5月31日(日)9時15分教務支庁集合、16時頃解散予定  
会場 盛岡分教会  
内容 ビデオ足場の倉庫を作る作業  
携行品 隊服、ヘルメット、安全靴、マスク  
申込み 5月26日(火)までに事務局(佐々木賢一)へ氏名報告

#### 行事予定

【5月分】

- 2日 主事会(9時)
- 役員会議(10時)
- 17日 岩手教区小史編集委員会(10時)
- 女子青年例会(10時)
- 31日 災救隊教区訓練(9時15分集合)